

## 京都大学・東京外国語大学とクロスアポイントメントを実施

～地域研究（人文社会系）に係る教育研究の活性化・強化への貢献に期待～

### 【概要】

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター（以降、当センター）は、日本の人文社会系の地域研究に係る教育研究の活性化・強化のため、京都大学東南アジア地域研究研究所（以降、CSEAS）及び東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（以降、ILCAA）と、クロスアポイントメントに関する協定を締結しました。

令和3年10月1日より、CSEASの村上勇介教授、ILCAAの黒木英充教授がクロスアポイントメント適用教員となり、北海道大学教授として教育研究活動を行います。また当センターの長縄宣博教授が、同様に東京外国語大学教授として教育研究活動を行います。

### 【プロジェクト開始に至った経緯】

当センターは、2004年4月に発足した地域研究コンソーシアムの設立メンバーとして、CSEAS及びILCAAと長年にわたり日本の地域研究をリードしてきました。また、CSEASが東南アジアだけでなく、南米や中央アジアなどの地域研究もカバーしていること、ILCAAがイスラームや中東研究に強みを持っていることから、スラブ・ユーラシア地域の教育研究を担う当センターと共同研究しうる分野も少なくなく、これまでも3機関での連携を進めてきました。

刻一刻と変化し予測が難しい世界的変動を読み解くためには、旧来の地域割りを超え、地域横断的に鳥瞰する総合的な研究力の強化が求められています。今回、当センターは両研究所との人材交流も含めた共同研究体制を組み、このような時代の要請に積極的に対応することにしました。

北海道大学教授としてお迎えする村上教授は、ラテンアメリカ研究の第一人者であり、比較政治の分野でも学界をリードしており、当センターの強みでもある中東欧との比較及び境界研究（ボーダースタディーズ）との接合など、地域研究の広域化への貢献が期待されます。また、黒木教授は中東・イスラーム学が専門であり、スラブ・ユーラシア地域におけるイスラーム研究、中東とロシアを結び付けた国際政治の分析など新しい視座からの貢献が期待されます。

東京外国語大学教授として勤務される長縄教授も、ILCAAのイスラーム学の研究にスラブ・ユーラシアの知見を加えることで当該分野の地域研究に厚みを持たせる貢献が期待されます。

このように、本学研究スタッフとして新たにラテンアメリカ・中東地域における第一人者が加わることで、地域のメディアや市民に対する当該地域に関わる知識の涵養に繋がります。

### 【内容・対象・意義】

1. 北海道大学と京都大学の協定により、村上教授は両大学に所属し、定まったエフォートに応じてそれぞれの機関で活動を行います。
2. 北海道大学と東京外国語大学の協定により、黒木教授と長縄教授は両大学に所属し、定まったエフォートに応じてそれぞれの機関で活動を行います。

3. 勤務割合：村上勇介教授（北海道大学 10%・京都大学 90%）  
黒木英充教授（北海道大学 10%・東京外国語大学 90%）  
長縄宣博教授（北海道大学 90%・東京外国語大学 10%）

**【実施時期】**

令和 3 年 10 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

**お問い合わせ先**

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター事務室

T E L 011-706-3156 F A X 011-706-4952 メール [jimu@slav.hokudai.ac.jp](mailto:jimu@slav.hokudai.ac.jp)

**配信元**

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール [jp-press@general.hokudai.ac.jp](mailto:jp-press@general.hokudai.ac.jp)